

2020 年度 研究所事業報告書

研究所名	歴史都市防災研究所
------	-----------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 年)および 2020 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。なお、2020 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

文化遺産・歴史都市の保全活用と災害安全の両分野をつなぐ総合的な研究領域である文化遺産防災学を創発し、これに関する研究・教育・社会連携、さらには情報基盤の拠点形成を目標に据えた活動を、継続的に実施した。以下、具体的な成果について、活動項目毎に要約する。

- ① **歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会**: 歴史文化都市の将来の災害リスクを明らかにし、災害時の対応や復興時の状況を歴史的背景とともに具体的に評価していくために、古文書や絵図や修理報告書をはじめ、京都などの歴史都市や火災で焼失した首里城などの復元遺産を含む文化遺産を対象にした、新たに人の流動データを使用するなどして定型的・非定型的両面で大規模かつ動的な時空間情報の取得・解析を進展させ、多様な側面からの歴史災害都市研究ならびに歴史都市の将来に関するジオデザインに活用するための情報基盤整備と地理空間評価の手法開発を継続した。
- ② **歴史文化都市の防災技術研究部会**: 「歴史・文化・意匠的価値」と「防災性能」を兼ね備えた歴史文化都市・地域の防災技術を確認すること目的に、昨年度までの文化遺産防災技術に関連する研究活動を継続的に発展させて以下の研究を行った。(1) 歴史的文化的財建造物の耐震補強・改修技術の開発、(2) 歴史文化都市の防耐火システムと機器の開発、(3) 歴史文化地域の地盤環境を踏まえた防災技術の開発、加えて出石防災計画策定受託研究に絡め、出石伝建地区の土砂災害・洪水氾濫危険性の評価を行った。
- ③ **歴史文化都市の防災デザイン研究部会**: 上記①、②の研究成果を統合し、実際に生きた歴史文化都市に実装するためには、受け継がれた地域環境とコミュニティ社会の特性とニーズに合った、「環境的・文化的に重要な空間を保全しつつ開発する」ための計画と政策が不可欠となる。地域固有の物理的・社会的・歴史的特性をデータ基盤により把握し、その特性分析により未来の減災の知恵と呼べる技術を抽出し、これを将来の地域環境と地域社会の時間軸上に実践的に位置づけようとする防災デザイン・コミュニティデザインの視点に立脚した取組みを行ない、一連の研究プロセスの総合化を担った。2019 年度に事前調査に引き続き、受託研究としても受け入れた出石伝建地区の防災計画策定に着手した。
- ④ **国際展開・社会連携 研究支援プログラム**: 2020 年度はコロナ禍の中でも 80 名以上の応募者があったが、研修の実施は諦め、その代替プロジェクトとしてウェビナーシリーズ「文化遺産防災における人材育成: ポストコロナの挑戦と創生」やオンラインワークショップ「文化遺産防災の優秀な取り組み」を実施した。ワークショップにおいては事前に過年度研修生を対象とし、研修後における母国での文化遺産防災への取り組みについて把握することを目的とした過年度研修者からの公募から選定された優秀な取り組みに対しての発表と表彰式を 3 日に渡るワークショップとして実施した。それぞれのウェビナーやワークショップへの参加者は 100~150 名以上であり、52 か国以上からの参加であった。国際研修の振り返りとして各年度からの研修生による母国での文化遺産防災関連の活動報告をインタビュー形式で事前に取りまとめ、ワークショップ中ではそれらの動画を放映するなど、本国際研修の国際社会への貢献の再確認と文化遺産防災の人材育成という世界的ニーズに対する本国際研修継続の必要性が確認された。

研究所のその他主催事業等: 柱となる年次事業として「第 14 回歴史都市防災シンポジウム」を当初予定の 7/13 から延期して、オンライン (Zoom) で 12/5 に開催し、35 件の研究発表と活発な討議が行われ、国内外から 104 名の参加があった。「立命館土曜講座」では「歴史災害に学ぶ-史料から読み解く京の被災経験-」をテーマに公開講演会として市民向け講義を提供した。定例研究会も、年度内に 6 回開催し、各研究部会の若手研究者から成果報告がなされ活発な研究交流を行なった。他にも情報発信として学術論文集「歴史都市防災論文集 Vol.14」や「京都歴史災害研究 第 22 号」を刊行した。地域社会への貢献を目指した事業である「第 14 回地域の安全安心マップコンテスト」では 60 件の応募があり、幅広い地域からの作品が寄せられ、着実に社会的な認知を広めつつ質の高い作品を集めることができた。また、最優秀賞作品は大臣賞候補として推薦した第 24 回全国児童生徒地図作品展で 1844 点の作品の中から、最優秀賞にあたる国土交通大臣賞を受賞した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2021年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	大窪 健之	理工学部環境都市工学科	教授
運営委員	花岡 和聖	文学部 人文学科（地域研究学域）	准教授
	吉富 信太	理工学部建築都市デザイン学科	教授
	青柳 憲昌	理工学部建築都市デザイン学科	准教授
	小川 圭一	理工学部環境都市工学科	教授
	鐘ヶ江 秀彦	政策科学部政策科学科	教授
	河角 直美	文学部 人文学科（地域研究学域）	准教授
	金 度源	理工学部環境都市工学科	准教授
	武田 史朗	理工学部建築都市デザイン学科	教授
	豊田 祐輔	政策科学部政策科学科	准教授
	深川 良一	理工学部	特命教授
	藤本 将光	理工学部環境都市工学科	准教授
	宗本 晋作	理工学部建築都市デザイン学科	教授
	村中 亮夫	文学部 人文学科（地域研究学域）	准教授
	矢野 桂司	文学部 人文学科（地域研究学域）	教授
SHAKYA, Lata	衣笠総合研究機構 特別招聘研究教員	准教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	阿部 俊彦	理工学部 建築都市デザイン学科	准教授
	泉 知論	理工学部電子情報工学科	教授
	伊津野 和行	理工学部環境都市工学科	教授
	宇佐美 智之	文学部 人文学科（地域研究学域）	特任助教
	岡井 有佳	理工学部環境都市工学科	教授
	川崎 佑磨	理工学部環境都市工学科	准教授
	神田 孝治	文学部 人文学科（地域研究学域）	教授
	児玉 恵理	文学部 人文学科（地域研究学域）	特任助教
	小林 泰三	理工学部環境都市工学科	教授
	桜井 政成	政策科学部政策科学科	教授
	佐藤 弘隆	文学部 人文学科（地域研究学域）	特任助教
	里深 好文	理工学部環境都市工学科	教授
	高橋 学	文学部 人文学科（地域研究学域）	特任教授
	塚口 博司	理工学部環境都市工学科	特任教授
	仲谷 善雄	情報理工学部情報理工学科	教授
	狭間 恵三子	衣笠総合研究機構 招聘研究教員	教授
	平尾 和洋	理工学部建築都市デザイン学科	教授
	福水 洋平	理工学部電気電子工学科	准教授
福山 智子	理工学部建築都市デザイン学科	准教授	

	藤井 健史	理工学部建築都市デザイン学科	助教
	持田 泰秀	理工学部建築都市デザイン学科	教授
	山崎 有恒	文学部人文学科 (日本史研究学域)	教授
	山田 悟史	理工学部建築都市デザイン学科	講師
	山本 理佳	文学部 人文学科 (地域研究学域)	准教授
① 専門研究員 研究員 初任研究員	大橋 弘明	衣笠総合研究機構	専門研究員
	酒井 宏平	O I C総合研究機構	専門研究員
	金 侖美	総合科学技術研究機構	専門研究員
② リサーチアシスタント			
③ 大学院生	常木 佳奈	文学研究科	博士課程後期課程
	前田 一馬	文学研究科	博士課程後期課程
	印牧 真明	文学研究科	博士課程後期課程
	北本 英里子	理工学研究科	博士課程後期課程
	高山 翔揮	理工学研究科	博士課程後期課程
	QIN Xin	理工学研究科	博士課程後期課程
	大西 功	理工学研究科	博士課程後期課程
	清水 泰有	政策科学研究科	博士課程後期課程
	留野 僚也	政策科学研究科	博士課程後期課程
	武内 樹治	文学研究科	博士課程前期課程
	岡本 和将	理工学研究科	博士課程前期課程
	和田 康志	理工学研究科	博士課程前期課程
	峯本 真	理工学研究科	博士課程前期課程
	OGUNBIYI Joshua Olabamiji	理工学研究科	博士課程前期課程
	大野 耕太郎	理工学研究科	博士課程前期課程
	大橋 克矢	理工学研究科	博士課程前期課程
	小川 和馬	理工学研究科	博士課程前期課程
	櫻井 琢人	理工学研究科	博士課程前期課程
	白根 史崇	理工学研究科	博士課程前期課程
	安原 大貴	理工学研究科	博士課程前期課程
	伊藤 芳治	理工学研究科	博士課程前期課程
	横田 芙実子	理工学研究科	博士課程前期課程
	松井 優貴	理工学研究科	博士課程前期課程
	深井 麻理奈	理工学研究科	博士課程前期課程
	石井 拓弥	理工学研究科	博士課程前期課程
	倉田 紘平	理工学研究科	博士課程前期課程
	大谷 理個	理工学研究科	博士課程前期課程
	田中 大輝	理工学研究科	博士課程前期課程
	HU Shaobo	理工学研究科	博士課程前期課程
	LI Jiabing (李 佳冰)	理工学研究科	博士課程前期課程
MA Jiachen	理工学研究科	博士課程前期課程	
小島 尚之	理工学研究科	博士課程前期課程	

学内の若手研究者

長澤 優輝	理工学研究科	博士課程前期課程
福井 誠	理工学研究科	博士課程前期課程
村上 雅也	理工学研究科	博士課程前期課程
安田 有輝	理工学研究科	博士課程前期課程
岡田 潤	理工学研究科	博士課程前期課程
荻 智隆	理工学研究科	博士課程前期課程
笠原 浩平	理工学研究科	博士課程前期課程
宮原 悟	理工学研究科	博士課程前期課程
宮崎 春歌	理工学研究科	博士課程前期課程
宮本 勝斗	理工学研究科	博士課程前期課程
原田 大輔	理工学研究科	博士課程前期課程
三谷 純平	理工学研究科	博士課程前期課程
山根 雅也	理工学研究科	博士課程前期課程
山田 陽太	理工学研究科	博士課程前期課程
山脇 慎平	理工学研究科	博士課程前期課程
酒井 智弘	理工学研究科	博士課程前期課程
神代 康輔	理工学研究科	博士課程前期課程
西川 慶	理工学研究科	博士課程前期課程
石田 祐太	理工学研究科	博士課程前期課程
大谷 育夢	理工学研究科	博士課程前期課程
大坪 篤貴	理工学研究科	博士課程前期課程
谷口 有里香	理工学研究科	博士課程前期課程
竹内 基起	理工学研究科	博士課程前期課程
中西 裕也	理工学研究科	博士課程前期課程
辻 寛太	理工学研究科	博士課程前期課程
南本 一樹	理工学研究科	博士課程前期課程
幡野 遥	理工学研究科	博士課程前期課程
尾崎 彬也	理工学研究科	博士課程前期課程
野端 智志	理工学研究科	博士課程前期課程
友田 樹哉	理工学研究科	博士課程前期課程
李 佳冰	理工学研究科	博士課程前期課程
鈴木 将太	理工学研究科	博士課程前期課程
櫻井 源	理工学研究科	博士課程前期課程
澤森 奨太	理工学研究科	博士課程前期課程
Ayu Erlinna	理工学研究科	博士課程前期課程
LI Yihan (李 一晗)	理工学研究科	博士課程前期課程
星山 博紀	理工学研究科	博士課程前期課程
竹村 庄平	理工学研究科	博士課程前期課程
高瀬 蔵	理工学研究科	博士課程前期課程
川島 直人	理工学研究科	博士課程前期課程
山田 由生	理工学研究科	博士課程前期課程
伊藤 直也	理工学研究科	博士課程前期課程

		井上 雄登	理工学研究科	博士課程前期課程	
		吉川 奎	理工学研究科	博士課程前期課程	
		古川 祥也	理工学研究科	博士課程前期課程	
		三輪 晋也	理工学研究科	博士課程前期課程	
		山本 琴乃	理工学研究科	博士課程前期課程	
		山崎 良祐	理工学研究科	博士課程前期課程	
		水野 裕斗	理工学研究科	博士課程前期課程	
		川上 樹	理工学研究科	博士課程前期課程	
		川田 泰歩	理工学研究科	博士課程前期課程	
		中村 魁	理工学研究科	博士課程前期課程	
		中内 聡哉	理工学研究科	博士課程前期課程	
		田崎 幹大	理工学研究科	博士課程前期課程	
		田邊 勇樹	理工学研究科	博士課程前期課程	
		北村 一貴	理工学研究科	博士課程前期課程	
		堀畑 卓矢	理工学研究科	博士課程前期課程	
		林 畝乃香	理工学研究科	博士課程前期課程	
		YANG Manzun	政策科学研究科	博士課程前期課程	
		ZHANG Xuan	政策科学研究科	博士課程前期課程	
		④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)			
		その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)			
客員協力研究員		土岐 憲三	衣笠総合研究機構	特別研究フェロー	
		松浦 晃一郎	衣笠総合研究機構	特別研究フェロー	
		樋本 圭佑	国土交通省国土技術政策総合研 究所	主任研究官	
		高橋 暁	ユネスコ・アラブ諸国科学技術地 域事務所	文化担当官	
		福山 大典	株式会社アイエス工業所	開発部長	
		田中 哮義	京都大学	名誉教授	
		森 清顕	清水寺	執事補	
		古川 愛子	京都大学大学院 工学研究科 都市社会工学専攻	准教授	
		高松 正彦	一般財団法人日本緑化センター	緑化事業部長	
		森下 雄治	森下漆器株式会社	代表取締役	
		大岡 優	都城工業高等専門学校 建築学科	准教授	
		林 倫子	関西大学 環境都市工学部 都市システム工学科	准教授	
		JIGYASU, Rohit	ICCROM	Project Officer	
		棚橋 秀光	TASS デザイン研究室	主宰	
		佐藤 英佑	株式会社佐藤建築設計	代表取締役	
	鈴木 祥之	京都大学	名誉教授		

	益田 兼房	衣笠総合研究機構	客員研究員
	石田 優子	大阪府立大学工業高等専門学校	講師
	山崎 文雄	千葉大学大学院工学研究科	名誉教授
	Chaweewan DENPAIBOON	チュラロンコン大学 建築学部	准教授
	石橋 健一	愛知学院大学総合政策学部	教授
	梶 秀樹	一般財団法人地域防災支援協会 ／筑波大学	理事 ／名誉教授
	神田 隆男	丸軒企業有限公司	京都支店長
	大槻 知史	高知大学総合科学系地域協働教育学部門	准教授
	城月 雅大	名古屋外国語大学現代国際学部 国際教養学科	准教授
	和泉 潤	衣笠総合研究機構	客員研究員
	Paola RIZZI	The University of Sassari	教授
	宮崎 洋司	株式会社プラス社会計画センター	所長
	丸岡 稔典	名古屋産業大学	特任講師
	村尾 修	東北大学 災害科学国際研究所 地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野	教授
	崔 明姫	名古屋工業大学 おもひ領域	非常勤研究員
	石原 凌河	龍谷大学政策学部	講師
	冷泉 為人	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫	理事長
	壽崎 かすみ	龍谷大学 国際学部	准教授
	青木 和人	あおき地理情報システム研究所	代表
	矢尾田 清幸	沖縄県土地改良事業団体連合会 会員支援課	課長
	高木 良枝	京都市指定文化財長江家住宅	学芸員
	桐村 喬	皇學館大学 文学部 コミュニケーション学科	准教授
	高橋 彰	大阪大学 サイバーメディアセンター	特任助教
	山本 大策	コルゲート大学 地理学科 アジア研究プログラム	准教授
	山本 由美子	コルゲート大学地理学科 教養学部	講師
	寺床 幸雄	長崎県立大学 地域創造学部公共政策学科	講師
	中谷 友樹	東北大学大学院環境科学研究科	教授
	安本 晋也	中部大学中部高等学術研究所	講師
	郭 凱鴻	大阪商業大学 JGSS 研究センター	ポスドク研究員
	諏訪 浩	東京大学空間情報科学研究センター	客員研究員
	川道 美枝子	関西野生生物研究所	代表
	岡田 篤正	京都大学	名誉教授
	北原 糸子	衣笠総合研究機構	客員研究員
	植村 善博	佛教大学	名誉教授

	大邑 潤三	東京大学地震研究所	特任研究員
	板谷 直子	京都市都市計画審議会・京都市建築審査会・京都市元離宮二条城保存整備委員会 /国立大学法人奈良女子大学	各委員 /非常勤講師
	谷端 郷	北海学園大学人文学部	講師
	米島 万有子	熊本大学大学院人文社会科学研究所	准教授
	星野 安治	国立文化財機構奈良文化財研究所 年代学研究室	室長
	森田 耕平	(公財)利用運送振興会	職員
	木村 智	日本文理大学 工学部 建築学科	助教
	遠藤 直久	TATEMANIA (タテマニア) (建築意匠設計・施工)	
	島本 多敬	琵琶湖博物館	学芸員
	Wesley CHEEK	衣笠総合研究機構	プロジェクト研究員
	小山田 晋	東北大学	助教
	大場 修	京都府立大学	教授
その他の学外者	Joseph Allan KING	ICCROM	Director of Partnership and Communication
	Aparna Tandon	ICCROM	Project Manager of Collection Unit
	Kaori KAWAKAMI	Emergency preparedness and response Unit (CLT/EPR), Culture Sector, UNESCO	Chief
	Sophie ABRAHAM	Emergency preparedness and response Unit (CLT/EPR), Culture Sector, UNESCO	Associate Coordination Officer
	Lee BOSHER	Loughborough University	Professor
	Ksenia CHMUTINA	Loughborough University	Associate Professor
研究所・センター構成員 計 205 名 (うち学内の若手研究者 計 96 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2021年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	青柳憲正	『ふるまいの連鎖: エレメントの軌跡(第17回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館カタログ)』	共著	2020年8月	TOTO出版	門脇耕三, 青柳憲昌他	17-35
2	阿部俊彦	Japanese Machizukuri and Community Engagement: History, Method and Practice	共著	2020年1月	Routledge	Shigeru Satoh, Toshihiko Abe, Shin Aiba, Liang-Chun Chen, Katsuhiko Kubo, Chia-Chan Liao, Yosuke Mano, Kosuke Masuo, Kenjiro Matsuura, Akihiro Noda, Shinji Nojima, Hiroshi Saito, Hideaki	

						Shimura, Keisuke Sugano, Jie-Ying Wu, Alba Victoria Zamarb, ide Urdaniz, Chengqi Zhao	
3	川崎佑磨	Acoustic Emission and Related Non-Destructive Evaluation Techniques in the Fracture Mechanics of Concrete 2nd Edition	分担 執筆	2020年10月	Woodhead Publishing	Yuma Kawasaki, Tomoko Fukuyama, Takahisa Okamoto	
4	神田孝治	万博学：万国博覧会とい う、世界を把握する方法	分担 執筆	2020年8月	思文閣	佐野真由子編（担当： 神田孝治「沖縄国際海 洋博覧会と沖縄観 光」）	387-400
5	金 度源	Memory of 2015 Earthquake	共著	2020年1月	Subhash Printing Press	Lata Shakya, Takeyuki Okubo	
6	桜井政成	コミュニティの幸福論：助 け合うことの社会学	単著	2020年10月	明石書店	桜井政成	
7	佐藤弘隆	「京町家(京都市)」(一般 社団法人 日本民俗建築学 会編 『民家を知る旅：日 本の民家見どころ案内』)	分担 執筆	2020年6月	彰国社	日本民俗建築学会	
8	武田史朗	まちのようにキャンパスを つくりキャンパスのよう にまちをつかう：大学キャン パス再生のデザイン	共編者 (共編著者)	2020年1月	日本建築学会	日本建築学会	88-93, 116-118
9	豊田祐輔	「コミュニティ防災ゲー ミング：地震編」でコミュ ニティ防災を体験しよ う！」「ゲームの構造、役 割、ルールを考えてゲー ミングをつくる！」「コラム 世代を超えるゲーミングの プレイヤー」近藤敦、豊田 祐輔、宮脇昇、吉永潤編 『大学の学びを変えるゲー ミング』	共編者 (共編著者)	2020年1月	晃洋書房	豊田祐輔	40-62, 169-180, 206-207
10	花岡和聖	Long-Term Mass Displacements—The Main Demographic Consequence of Nuclear Disasters?	共著	2021	Springer, The Demography of Disasters: Impacts for Population and Place	Karacsonyi, D., Taylor, A. and Bird, D.	15-48
11	藤本将光	土砂災害の発生を予測する ために観測する-総説-	単著	2020年3月	公益社団法人砂防学会	藤本将光	96-98
12	藤本将光	斜面崩壊の発生を予測する -文化遺産を守る-	共著	2020年3月	公益社団法人砂防学会	藤本将光・檀上徹・平岡 信隆・酒匂一成・深川良 一	117-124
13	宗本晋作	A RELATIONSHIP BETWEEN ARCHITECTURE AND PEOPLE	共著	2020年11月	Architecture & Culture 474	Shinsaku Munemoto +SMA	pp. 62-107
14	矢野桂司	あいまいな時空間情報をも つ古地図の検索と活用	分担 執筆	2020年12月	古今書院、浅見泰司・薄 井宏行編『あいまいな時 空間情報の分析』	矢野桂司	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・ 共著の 別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号 数	その他編者・著者 名	担当頁数	査読 有無
1	青柳憲正	「滋賀県草津市・大萱神社 本殿の建築的特徴」	共著	2020年 9月	『日本建築学会大会学術 講演梗概集』	吉川奎, 青柳憲 昌	13-14	
2	青柳憲正	「近代の法隆寺金堂壁画保 存事業における合成樹脂を 用いた壁画硬化処理の経緯 と主旨」	共著	2020年 9月	『日本建築学会大会学術 講演梗概集』	林畝乃香, 青柳 憲昌	825-826	
3	青柳憲正	「世田谷区高見澤邸の都市 的状況と平面の変遷 戦後	共著	2020年 9月	『日本建築学会大会学術 講演梗概集』	門脇耕三, 青柳 憲昌, 樋渡彩,	1257-12 58	

		木造庶民住宅の増改築履歴調査 その1]				松本直之, 伊藤公人		
4	青柳憲正	「世田谷区高見澤邸の構法と部品の変化 戦後木造庶民住宅の増改築履歴調査 その2」	共著	2020年9月	『日本建築学会大会学術講演梗概集』	伊藤公人, 青柳憲昌, 松本直之, 門脇耕三	1259-1260	
5	阿部俊彦	建築系まちづくりファシリテーター養成講座の実践に関する試み	共著	2020年7月	建築教育研究論文報告集	松村哲志, 連健夫, 野澤康, 市古太郎, 渡邊研司, 阿部俊彦		
6	宇佐美智之	北部九州弥生時代前半期における集落分布・立地の変化: 集落の動態にみる列島初期農耕社会の形成過程	単著	2020年3月	立命館文学 (666)		148-162	
7	宇佐美智之	中央アジア・ザラフシャン川流域における土地利用変化と考古遺跡:Landsat 衛星データを用いた分析から	単著	2020年7月	立命館大学歴史都市防災研究所歴史都市防災論文集 14		139-146	
8	宇佐美智之	New Discoveries from Kafirkala: Coins, Sealings, and Wooden Carvings	共著	2020年8月	ACTA ASIATICA, 119		1-20	
9	大窪健之	A Study on Distribution Planning for Citizens' Hydrants with the User Experimental Drill of Extra Connectable Hoses in Kiyomizu WCH Zone, Kyoto JAPAN	共著	2020年6月	Le Vie dei MercantiXVIII International Forum	Takeyuki OKUBO, Dowon KIM, Tomohiko OWADA, Michiko HAYASH	257-266	
10	大窪健之	歴史的街区に備わる減災手法の防火性能評価 ～伝統的緑地による延焼抑止効果に着目して～	共著	2020年7月	歴史都市防災論文 vol. 14	大窪健之, 砂田陸, 金度源	179-186	
11	大窪健之	災害情報を即時共有する地域防災情報ネットワークシステムの導入効果に関する検証 : 京都市先斗町での避難シミュレーションを通して	共著	2020年7月	歴史都市防災論文 vol. 14	山根雅也, 大窪健之, 金度源	187-194	
12	大窪健之	重要伝統的建造物群保存地区における公有建物と私有敷地の防災拠点化に関する調査研究 : 地域防災資源のデータベース構築と事例調査を通して	共著	2020年7月	歴史都市防災論文 vol. 14	金度源, 中林秀光, 大窪健之	195-202	
13	岡井有佳	防災街区整備事業を活用した密集市街地整備に関する研究	共著	2020年7月	歴史都市防災論文集 Vol. 14	山際大貴, 岡井有佳	163-170	
14	岡井有佳	建築基準法第43条第2項第二号許可制度の運用実態に関する研究: 京都市を事例として	共著	2020年7月	歴史都市防災論文集 Vol. 14	岡野遼太郎, 岡井有佳	171-178	
15	岡井有佳	大学施設と一体的に整備された防災公園の効果に関する研究—茨木市岩倉公園を事例として—	共著	2020年6月	2020年度大会学術講演梗概集 F-1	三吉寛之, 岡井有佳	743-744	
16	小川圭一	文化遺産防災を対象としたCVMにおける「特定可能な犠牲者効果」に関する分析	共著	2020年7月	歴史都市防災論文集 Vol. 14	小川圭一, 志賀健生	215-222	
17	鐘ヶ江秀彦	Understanding of citizens' loyalty in city regeneration: Post-mining communities in Sawahlunto, West Sumatera	共著	2020年6月	Journal of the Asia-Japan Research Institute, Asia-Japan Research Institute, Ritsumeikan University	Roni ARMIS, Hidehiko KANEGAE		

18	川崎佑磨	NUMERICAL SIMULATION FOR DETECTING INTERNAL VOID OF SEISMIC RUBBER BEARING	共著	2020年	Journal of Japan Association for Earthquake Engineering 20(5)	Yuuki NOSE, Kazuyuki IZUNO, Yuma KAWASAKI	24-35	
19	川崎佑磨	鋼板間のゴム内部で発生した剥離音のAE法による検出精度に関する確認実験	共著	2020年5月	土木学会論文集A1(構造・地震工学) 76(2)	川崎佑磨, 田中陽裕, 山田悠二, 植田健介, 伊津野和行	229-238	
20	川崎佑磨	Failure-mode analysis of macro-synthetic and hybrid fibre-reinforced concrete beams with GFRP bars using acoustic emission technique	共著	2020年7月	Journal of Construction and Building Materials 249(20)	Amal Dev・M.Chellapandian, S. Suriya Prakash, Yuma Kawasaki	1-12	
21	川崎佑磨	空気圧入法によるポーラスコンクリート表層部の目詰まり評価	共著	2020年7月	コンクリート工学年次論文集 42(1)	白川裕太, 川崎佑磨, 中島康成, 山田茂	1318-1323	
22	川崎佑磨	揮発速度を変えたアロマ水を混入したモルタルの香り持続性と印象評価に関する研究	共著	2020年7月	コンクリート工学年次論文集 42(1)	宇野彩葉, 川崎佑磨, 新大軌, 兵頭正浩	1264-1269	
23	川崎佑磨	振動締め固め時間がコンクリートの力学的特性および細孔構造に与える影響	共著	2020年7月	コンクリート工学年次論文集 42(1)	坂野大世, 山田悠二, 川崎佑磨	1198-1203	
24	川崎佑磨	AE法と電気化学ノイズ法を併用したRC中の鉄筋腐食の早期評価に関する研究	共著	2020年7月	コンクリート工学年次論文集 42(1)	福井慎也, 康田雄太, 川崎佑磨, 福山智子	1702-1707	
25	川崎佑磨	POROSITY AT EACH DEPTH IN POROUS CONCRETE DUE TO PASTE DRAW-DOWN	共著	2020年8月	Proceedings of ConMat'20	S. S. Ajjaz, Y. Shirakawa, T. Yoshida, Y. Kawasaki	533-543	
26	川崎佑磨	SEISMIC RUBBER BEARING DAMAGE DETECTION USING ELASTIC WAVE PROPAGATION METHOD	共著	2020年9月	Proceedings of 17WCEE 2d-0024	M.Ikuta, K. Izuno, Y. Kawasaki		
27	河角直美	近代京都における主要商店街の店舗復原—《祇園町》を事例とした方法の検討—	共著	2021年	歴史地理学 63-4	加藤政洋, 河角直美	未定	
28	河角直美	近代京都における近郊遊園地の開発と景観の変遷—八瀬を中心に—	単著	2021年	立命館文学 (672)	河角直美	未定	
29	河角直美	近代京都における郊外住宅地の開発とその立地特性—御室小松野町を例として—	単著	2020年	立命館文学 (666)	河角直美	201-214	
30	神田孝治	『Pokémon GO』のリアルワールドイベントと地域—2018年の横須賀市における事例に注目した考察—	単著	2020年3月	立命館文学—666	神田孝治	131-147	
31	金度源	重要伝統的建造物群保存地区における公有建物と私有敷地の防災拠点化に関する調査研究—地域防災資源のデータベース構築と事例調査を通して—	共著	2020年7月	歴史都市防災論文集、Vol. 14	金度源, 中林秀光, 大窪健之		
32	金度源	歴史的街区に備わる減災手法の防火性能評価—伝統的緑地による延焼抑止効果に着目して—	共著	2020年7月	歴史都市防災論文集、Vol. 14	大窪健之, 砂田陸, 金度源		
33	金度源	災害情報を即時共有する地域防災情報ネットワークシステムの導入効果に関する検証	共著	2020年7月	歴史都市防災論文集、Vol. 14	山根雅也, 大窪健之, 金度源		

		～京都市先斗町での避難シミュレーションを通して～						
34	金 度源	伝統的な建築構成要素による延焼抑止効果に関する研究～重要伝統的建造物群保存地区の袖壁・うだつに着目して～	共著	2020年 7月	日本建築学会近畿支部研究報告書 第60号	竹内基起, 大窪健之, 金度源		
35	金 度源	震災時の在宅避難者への地域支援に関する研究～京都市上京区を対象とした防災拠点としての社寺の活用について～	共著	2020年 7月	日本建築学会近畿支部研究報告書 第60号	林原未弥, 大窪健之, 金度源		
36	金 度源	SD法を用いた「先斗町らしさ」の抽出に関する研究—路地空間の外観に対する因子分析を通して—	共著	2020年 7月	日本建築学会近畿支部研究報告書 第60号	岡本和将, 金度源, 大窪健之		
37	金 度源	A Study on Distribution Planning for Citizens' Hydrants with the User Experimental Drill of Extra Connectable Hoses in Kiyomizu WCH Zone, Kyoto JAPAN	共著	2020年 6月	XVIII International Forum, Le Vie dei Mercanti	Takeyuki OKUBO, Dowon KIM, Tomohiko OWADA, Michiko HAYASH		
38	金 度源	Capacity of World Heritage Temples for Using as Evacuation Places and Shelters against to the Tourism Hazard: A Case Study for Post-Earthquake Response in Kyoto, Japan	共著	2020年 10月	ICOMOS GA2020 - 6ISCS Joint Meeting	Dowon Kim, Takeyuki Okubo, Hiroki Shimizu		
39	金 度源	歴史的町並みの地区防災データベースの構築	共著	2020年 11月	考古学ジャーナル 11月号	金度源, 中林秀光, 大窪健之		
40	金 度源	Implementation of Build Back Better (BBB) Framework in Achieving Sustainable Development Goals Case Study: Housing Reconstruction at Duyu Urban Village, Palu City, Central Sulawesi Province	共著	2020年 12月	The Journal of Indonesia Sustainable Development Planning	Ayu Erlinna, Djoko Santoso, Abi Suroso, Dowon Kim		
41	小林泰三	3次元データを活用した新しい締固め管理技術の提案	共著	2020年	地盤工学会、地盤工学会誌、Vol. 68, No. 12, Ser. No. 755	小林泰三, 土佐信一, 竹添明生, 池永太一, 松浦良信, 高森太郎, 長谷川裕員	pp. 15-18	
42	小林泰三	打撃エネルギーを利用したバックホウによる盛土法面締固め技術とその適用	共著	2020年	基礎工、Vol. 48, No. 11	安福規之, 石蔵良平, 小林泰三, 谷山 充	pp. 92-95	
43	小林泰三	平成30年7月豪雨を誘因として福井県内に発生した斜面崩壊の現地調査-UAVによる空撮と斜面安定解析	共著	2020年	自然災害科学 133, Vol. 39, No. 1	辻野和彦, 小林泰三	pp. 23-34	
44	小林泰三	3次元測量技術を活用した地盤構造の逆解析の高度化に向けた基礎的研究	共著	2020年	地盤工学会関西支部、Kansai Geo-Symposium 論文集	宮原悟, 財津駿平, 松浦敦, 小林泰三	pp. 148-153	
45	小林泰三	住民の防災意識および地域防災力の向上のための住民参加型斜面計測・モニタリングシステムの構築—福井市高須町の事例—	共著	2020年	地盤工学会関西支部、Kansai Geo-Symposium 論文集	小山倫史, 近藤誠司, 小林泰三, 芥川真一, 佐藤毅, 中田勝行, 下嶋一幸	pp. 245-250	
46	桜井政成	兵庫県豊岡市城崎温泉における観光まちづくり取り組みに関する調査結果—地域コミュニティ課題との関連、サステイナブルツーリズムへの視座	単著	2020年 3月	地域情報研究：立命館大学地域情報研究所紀要 9	桜井政成	94-106	

47	佐藤弘隆	澤木政輝著『祇園の祇園祭』書評	単著	2020年 1月	図書新聞 (3432)	佐藤弘隆	4	
48	佐藤弘隆	第四代会長・杉本尚次先生の民家研究史を訪ねる	共著	2020年 3月	民俗建築 70年—1950年—2020年—	河原典史, 堤涼子・佐藤弘隆	22-25	
49	佐藤弘隆	2019年度 秋の見学会報告 丹後の漁村家屋にみる文化的景観	単著	2020年 5月	日本民俗建築学会民俗建築 (157)	佐藤弘隆	37-42	
50	佐藤弘隆	河内将芳著『室町時代の祇園祭』書評	単著	2020年 11月	図書新聞 (3472)			
51	里深好文	進行性崩壊による天然ダム決壊過程に関する研究	共著	2020年 1月	砂防学会誌 72(5)	高山翔揮, 藤本将光, 里深好文	3-14	
52	里深好文	異なる Digital Elevation Model を用いたシミュレーションによる土石流の危険度分布の把握と避難計画への活用	共著	2020年 3月	砂防学会誌 72(6)	中谷加奈, 長谷川祐治, 里深好文	8-17	
53	里深好文	山地河川における河床堆積土砂の移動限界に着目した河床変動計算に関する研究	共著	2020年 5月	砂防学会誌 73(1)	丹羽諭, 内田太郎, 里深好文	3-14	
54	里深好文	ライフサイクルコストを考慮した砂防関係施設の長寿命化計画策定に関する提案	共著	2020年 7月	砂防学会誌 73(2)	原田紹臣, 里深好文, 水山高久	48-54	
55	里深好文	砂防設備等における除石や延命化を考慮したライフサイクルコスト縮減に関する一考察	共著	2020年 9月	第10回土砂災害に関するシンポジウム論文集	原田紹臣, 里深好文, 水山高久	103-108	
56	里深好文	堆砂条件を考慮した不透過型砂防堰堤の捕捉機能に関する検討	共著	2020年 9月	第10回土砂災害に関するシンポジウム論文集	中谷加奈, 麻野佑介, 長谷川祐治, 里深好文	115-120	
57	里深好文	水路実験による土砂移動時の地盤振動のスペクトルと距離減衰に関する考察	共著	2020年 9月	第10回土砂災害に関するシンポジウム論文集	筒井和男, 坂口隆紀, 海原荘一, 谷田佑太, 木下篤彦, 柴田俊, 金澤瑛, 中谷洋明, 里深好文, 藤本将光	133-138	
58	里深好文	マルチシナリオによる住宅地内の土石流危険度リスクの評価方法の検討	共著	2020年 9月	第10回土砂災害に関するシンポジウム論文集	長谷川祐治, 中谷加奈, 青柳昌憲, 海堀正博, 里深好文	193-198	
59	里深好文	Acquisition of 3D Coordinates of a Landslide Dam Deformation Process by SfM Using Multiple Experimental Videos	共著	2020年 10月	Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University 2	Shoki TAKAYAMA, Toshiya NAKAUCHI, Masamitsu FUJIMOTO and Yoshifumi SATOFUKA	45-58	
60	里深好文	Amplification of flood discharge caused by the cascading failure of landslide dams	共著	2020年 11月	International Journal of Sediment Research	Shoki Takayama, Masamitsu Fujimoto & Yoshifumi Satofuka		
61	里深好文	天然ダムのすべり破壊により生じる洪水流の規模に関する研究	共著	2020年 11月	土木学会論文集 B1(水工学) 76(2)	高山翔揮, 星山博紀, 藤本将光, 里深好文	I_1183-I_1188	
62	豊田祐輔	A Framework of Simulation and Gaming for Enhancing Community Resilience against Large-scale Earthquakes: Application for Achievements in Japan	単著	2020年 3月	Simulation & Gaming (SAGE) 51(2)	Toyoda Yusuke	180-211	

63	豊田祐輔	大学生の地域防災における主体性の形成を目的とした避難協力ゲーミングに関する研究-個人役割の認識に着目して	共著	2020年 12月	シミュレーション&ゲーミング (日本シミュレーション&ゲーミング学会) 30(2)	留野僚也, 豊田祐輔, 鐘ヶ江秀彦	73-83	
64	豊田祐輔	壮年層に着目した地域防災活動への参加意図に関する研究 (報告)	単著	2021年 2月	自然災害科学 (日本自然災害学会) 39(4)	豊田祐輔	forthcoming	
65	仲谷義雄	避難行動を誘発するための災害情報に関するテキスト表現の比較調査	共著	2020年 7月	電気学会論文誌C (電子・情報・システム部門誌) 140(7)	安井友徳, 北村尊義, 泉朋子, 仲谷善雄	874-882	
66	平尾和洋	京都市下京区雅学区の事前復興計画に向けた建築物の類型化及びその評価に基づく復興モデルの提案と延焼危険性の分析	共著	2020年 7月	歴史都市防災論文集 vol. 14	平尾和洋 田中勇気	155-162	
67	平尾和洋	京都市嵐山地区の事前復興計画に向けた建築物の類型化及び印象評価に基づく浸水被害を想定した復興モデルの提案	共著	2020年 7月	歴史都市防災論文集 vol. 14	内貴美作, 平尾和洋	147-154	
68	深川良一	Inhibitory effect of ground improvement on the subsidence of the leaning pagoda	共著	2021年 (掲載決定)	International Journal of Geomate	ISHIDA Yuko, ITO Hajime, FUKAGAWA Ryoichi	8 頁	
69	深川良一	テンシオメータの計測結果を加味した雨量指標による計測斜面での斜面崩壊予測精度の向上に関する研究	共著	2021年 (掲載決定)	土木学会論文集	檀上徹, 酒匂一成, 藤本将光, 石澤友浩, 伊藤真一, 深川良一	16 頁	
70	深川良一	アユタヤのレンガ造仏塔の保全に関する研究	共著	2021年 2月	月刊考古学ジャーナル・アカデミックレポート、No. 750	石田優子, 伊藤肇, 深川良一	pp. 32-33	
71	深川良一	傾斜計を用いた重要文化財後背斜面における斜面変位事例	共著	2020年 7月	歴史都市防災論文集、V01. 14	檀上徹, 藤本将光, 石澤友浩, 深川良一, 里深好文		
72	深川良一	斜面崩壊の発生を予測するー世界文化遺産を守るー	共著	2020年 2月	砂防学会編「観測の現場を訪ねて」	藤本将光, 檀上徹, 平岡伸隆, 酒匂一成, 深川良一	pp. 421-428	
73	深川良一	Experimental study on the prevention of soil outflow from the ground around bridge abutment using cement soil stabilization	共著	2020年	International Journal of GEOMATE, Vol.19, Issue 71	ISHIDA Yuko, TAKAYAMA Shoki, IZUNO Kazuyuki, SATOFUKA Yoshifumi, KOBAYASHI Taizo and FUKAGAWA Ryoichi	pp. 1-8	
74	福山智子	粉体の拘束水比に基づくカーボンナチューブ混和セメントペーストの流動性の評価		2020年	AIJ 大会学術講演梗概集	福山智子 (3名省略, 1番)		
75	福山智子	熱膨張係数を考慮した断面修復コンクリートの修復界面のひずみ変化に関する実験的研究		2020年	AIJ 大会学術講演梗概集	福山智子 (3名省略, 2番)		
76	福山智子	断面修復コンクリートの修復界面の形態と熱挙動の関係		2020年	AIJ 大会学術講演梗概集	福山智子 (3名省略, 4番)		
77	福山智子	断面修復コンクリートの修復界面の形態と熱応力の関		2020年	AIJ 大会近畿支部研究発表会	福山智子 (3名省略, 4番)		

		係						
78	福山智子	Experimental Study on the Thermal Behavior of Patched Concrete considering Coefficient of Thermal Expansion		2020年	大韓建築学会学術発表会	福山智子 (3名省略, 2番)		
79	福山智子	断面修復コンクリートの修復界面の形態と熱的挙動の関係		2020年	歴史都市防災論文集	福山智子 (3名省略, 4番)		
80	藤井健史	GPGPUを用いた交差判定式全方位可視率計算の超高速化-緑視率計算と植栽計画指標検討への応用-	共著	2020年	日本建築学会技術報告集63	藤井健史, 山田悟史	802-807	
81	藤井健史	石垣の見え方が丸亀城景観の印象評価に与える影響に関する研究	共著	2020年	歴史都市防災論文集 vol.14	藤井健史, 寺口絢子	209-214	
82	藤井健史	GPGPUを用いた超高速緑視率計算手法の開発と植栽計画指標検討への応用	共著	2020年	日本建築学会大会学術講演梗概集【選抜梗概】	藤井健史, 山田悟史		
84	藤本将光	京都府綾部市安国寺測線①をモデル斜面とした動態観測手法の現状報告	共著	2020年11月	Kansai Geo-Symposium 2020 論文集	小泉圭吾, 鈴井瑞生, 古川貴一, 小田和広, 伊藤真一, 藤本将光, 矢野晴彦, 鏡原聖史, 笹原克夫	6-6	
85	藤本将光	綾部市安国寺裏斜面における雨水浸透と地下水位の挙動に関するモニタリング結果の考察	共著	2020年11月	Kansai Geo-Symposium 2020 論文集	中森祐輔, 小田和広, 矢野晴彦, 小泉圭吾, 伊藤真一, 藤本将光, 鏡原聖史, 笹原克夫	6-7	
86	藤本将光	AIを活用した道路防災点検における危険度評価システムの提案	共著	2020年11月	第1回AI・データサイエンスシンポジウム論文集	原田紹臣, 藤本将光, 酒匂一成, 水山高久, 松井保	414-420	
87	宗本晋作	勾配を取り入れた街路ネットワークの中心性の研究-神戸における歩行経路を対象として-	共著	2020年10月	日本建築学会計画系論文集 第85巻 第776号	北本英里子, 山田悟史, 宗本晋作, 及川清昭	pp.2267-2276	
88	村中亮夫	安全安心マップ作成を通じた小学生親子の防災力向上と課題-第13回みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト関連事業報告-	共著	2020年3月	京都歴史災害研究(21号)	石田優子, 酒井宏平, 村中亮夫	31-41	
89	持田泰秀	STUDY ON THE EFFECT OF BAKING SODA ON BLEEDING AND COMPRESSIVE STRENGTH OF CEMENT MILK	共著	2020年9月	International Journal of GEOMATE 19(73)	Yasuhide Mochida, Ogunbiyi Joshua Olabamiji, Kouhei Kasahara	64-69	
90	矢野桂司	ジオコーディングのための京都市の住所表記に関する現状と課題	単著	2020年3月	立命館文学 666	矢野桂司	30-44	
91	矢野桂司	京都市一人暮らし高齢者全戸訪問事業に基づく福祉GIS活用の試み-地域福祉デジタル情報化課題の一考察-(上)	共著	2020年6月	立命館産業社会論集 56(1)		109-129	
92	矢野桂司	都市を鳥瞰する-居住者特性を可視化する	単著	2020年8月	建築と社会 101(1182)		14-15	
93	矢野桂司	人文学における地理空間情報の可視化-地図を重ね合わせて見る	単著	2020年9月	シミュレーション 39(3)	矢野桂司	1-6	

94	矢野桂司	京都市一人暮らし高齢者全戸訪問事業に基づく福祉GIS活用の試みー地域福祉デジタル情報化課題の一考察ー(下)	共著	2020年9月	立命館産業社会論集56(2)	小澤亘, 矢野桂司, 中谷友樹, 加藤博史	1-19	
95	矢野桂司	「祇園祭デジタル・ミュージアム2020」の構築・公開について	共著	2021年1月	E-journal GEO			
96	矢野桂司	2010年代末における京都市の宿泊施設GISデータベースの構築とその活用	単著	2021年3月	立命館文学			
97	山田悟史	Deep Learningを用いたデザインAIの作成と検証ー街並みと建築物外観の画像生成を対象にー	共著	2020年4月	日本建築学会計画系論文集85(770)	山田悟史, 大野耕太郎	987 - 995	
98	山田悟史	GPGPUを用いた交差判定式全方位可視率計算の超高速化ー緑視率計算と植栽計画指標検討への応用ー	共著	2020年6月	日本建築学会技術報告集26(63)	藤井健史, 山田悟史	802 - 807	
99	山田悟史	勾配を取り入れた街路ネットワークの中心性の研究ー神戸における歩行経路を対象としてー画像生成を対象にー	共著	2020年10月	日本建築学会計画系論文集85(776)	北本英里子, 山田悟史, 宗本晋作, 及川清昭	2267 - 2276	
100	山本理佳	旧軍港市転換法の運用実態に関する一考察	単著	2020年3月	立命館文学(立命館大学人文学会)(666)	山本理佳	1324-1338	
101	吉富信太	Model-free identification of hysteretic restoring-force characteristic of multi-plane and multi-story frame model with in-plane flexible floor		2020年	Frontiers in Built Environment (Specialty Section: Earthquake Engineering) 6(48)	Kenichirou Shintani, Shinta Yoshitomi and Izuru Takewaki		
102	SHAKYA Lata	子ども向けアンケート調査を容易にするフリップカード(査読付き)	共著	2020年2月	デザイン学研究作品集25巻1号	丹羽由佳理, 横田樹広, 富川駿, 森龍, Lata SHAKYA	p. 1_70-1_75	
103	SHAKYA Lata	Transition of post-disaster housing of rural households: A case study of the 2015 Gorkha earthquake in Nepal(査読付き)	共著	2020年4月	International Journal of Disaster Risk Reduction 44	Hitomu Kotani, Riki Honda, Saori Imoto, Lata Shakya, Bijaya Krishna Shrestha	(2020) 101443), pp. 1-14	
104	SHAKYA Lata	災害記憶継承に向けた出版活動ー2015年ネパール地震を事例として	共著	2020年7月	歴史都市防災論文集Vol. 14	サキヤ ラタ, 大窪健之, 金度源	265-270頁	
105	SHAKYA Lata	カトマンズ盆地内歴史的集落保全における法的枠組み 2015ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その13	共著	2020年9月	日本建築学会全国大会(関東)梗概集(日本建築学会)	Lata Shakya, 森朋子, 浅田なつみ	957-958頁	
106	SHAKYA Lata	カトマンズ盆地内歴史的集落における建築条例 2015ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その14	共著	2020年9月	日本建築学会全国大会(関東)梗概集(日本建築学会)	森朋子, Lata Shakya, 浅田なつみ	955-956頁	
107	SHAKYA Lata	立命館大学歴史都市防災研究所ウェビナーシリーズ「文化遺産防災における人材育成:ポストコロナの挑戦と創生」の開催報告	共著	2020年9月	日本イコモス国内委員会 ICOMOS Japan Information (2020 No.6)	大窪健之, 金度源, サキヤ ラタ	19	

108	SHAKYA Lata	THE MEMORY OF DISASTER, AND COMMUNITY-BASED DISASTER MITIGATION RESEARCH ACTIVITIES TOWARDS A SHARED RESPONSIBILITY	共著	2020年10月	2020 ICOMOS 6 ISCs Joint Meeting Proceedings (ICOMOS International)	Lata Shakya, Takeyuki Okubo, Dowon Kim	203-215	
109	大橋弘明	Suburban (mis)fortunes: outer suburban shrinkage in Tokyo Metropolis	共著	2021年1月	Urban Studies	Hiroaki Ohashi, Nicholas A. Phelps	OnlineFirst	
110	大橋弘明	Diversity in decline: The changing suburban fortunes of Tokyo Metropolis	共著	2020年8月	Cities, 103	Ohashi Hiroaki, Nicholas A. Phelps	OnlineFirst	
111	大橋弘明	Edge city denied?The rise and fall of Tokyo's outer suburban "Business Core Cities"	共著	2020年12月	Journal of Planning Education and Research, 40(4)	Nicholas A. Phelps, Hiroaki Ohashi	379-392	
112	酒井宏平	安全安心マップ作成を通じた小学生親子の防災力向上と課題: 第13回 みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト関連事業報告	共著	2020年3月	京都歴史災害研究 21	石田優子、酒井宏平、村中亮夫	31-41	

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	青柳憲昌	「復元(復原)の同時代性——関野克と大岡實の復元建築を通して——」	2020年2月	『文化遺産と〈復元学〉』刊行記念シンポジウム「復元学の意義と課題」	単著
2	青柳憲昌	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会アーカイブWG 2019年度事業報告」(書面開催)	2020年8月	第5回法隆寺金堂壁画保存活用委員会ワーキング・グループ全体会合/第6回法隆寺金堂壁画保存活用委員会	中村一郎
3	阿部俊彦	気仙沼内湾ウォーターフロント	2020年9月	2020年度日本建築学会大会(関東)	津久井誠人, 長谷川浩己, 角舘政英, 村山寛
4	宇佐美智之	北部九州弥生時代の集落立地変化と高地性集落の評価: GISを用いた空間分析から	2020年3月	日本情報考古学会第43回大会	単著
5	宇佐美智之	眺望分析を利用した高地性集落の研究: 集落の立地と眺望にみる弥生社会	2020年9月	「弥生時代高地性集落の列島の再検証」第1回研究会	単著
6	宇佐美智之	衛星画像を用いた中央アジア・オアシス地域における土地開発・利用の変遷と遺跡立地環境の検討: ウズベキスタン・サマルカンドを例として	2020年10月	第29回地理情報システム学会研究発表大会	単著
7	大窪健之	Community-based DRM workshop with a digital network for post-COVID times	2020年6月	The webinar series of "Capacity Building for Disaster Risk Management of Cultural Heritage: Challenges and Opportunities in Post-COVID Times", Institute of Disaster Mitigation for Urban Cultural Heritage	単独
8	大窪健之	SD法を用いた「先斗町らしさ」の抽出に関する研究—路地空間の外観に対する因子分析を通して	2020年6月	日本建築学会近畿支部研究発表会、pp. 253-256	岡本和将, 金渡源
9	大窪健之	震災時の在宅避難者への地域支援に関する研究—京都市上京区を対象とした防災拠点としての社寺の活用について—	2020年6月	日本建築学会近畿支部研究発表会、pp. 361-364	林原未弥, 金渡源
10	大窪健之	観光客等の緊急避難場所としての社寺の能力評価に関する研究—京都市清水・祇園地域を対象として	2020年7月	歴史都市防災論文集(報告), vol. 14, pp. 265-270	谷口有里香, 金渡源
11	大窪健之	災害記憶継承に向けた出版活動—2015年ネパール地震を事例として	2020年7月	歴史都市防災論文集(報告), vol. 14, pp. 265-270	サキヤ ラタ, 金渡源

12	小川圭一	文化遺産防災を対象としたCVMにおける「特定可能な犠牲者効果」に関する分析	2020年12月	第14回歴史都市防災シンポジウム	志賀健生
13	鐘ヶ江秀彦	What could Universities Contribute to SDGs with Society 5.0 in the Future?" in the session II: "Experiences of Energy Project/Project Contributing to SDG (Goal 7 and others)	2020年2月	In commemoration of the 30th Anniversary of the JSPS Bangkok Office JSPS (Japan Society for the Promotion of Science) – NRCT (National Research Council of Thailand) – JAAT (JSPS Alumni Association of Thailand) Seminar: "Sustainable Development Goals (SDGs) in Thailand and Japan", 18-19 February 2020, Amoma 1, 3rd floor, Amoma Grand Hotel, Bangkok, Thailand	単独
14	川崎佑磨	コンクリート中鉄筋の腐食診断を目的とした電気化学ノイズと鋼種の相関に関する研究	2020年9月	2020年度日本建築学会大会学術講演会	Ma Jiachen, 金侖美, 福山智子, 福井慎也,
15	神田孝治	The New Mobile Assemblages Caused by Pokémon GO	2020年2月	2nd International Conference of Critical Tourism Studies Asia Pacific	単独
16	金 度源	Capacity of World Heritage Temples for Using as Evacuation Places and Shelters against to the Tourism Hazard: A Case Study for Post-Earthquake Response in Kyoto, Japan	2021年2月	Key note presentation at 3rd Symposium on Seismic Rehabilitation of Urban and Architectural Heritage" by Iranian Research Institute for Cultural Heritage and Tourism, Tehran, Iran	Takeyuki Okubo, Hiroki Shimizu
17	金 度源	都市再生に関する韓日協力とコアタウンの活性化①都市再生の懸案と課題 - 韓日協力の可能性と期待できる成果	2020年10月	都市再生フォーラム生野コアタウン、在日韓国領事館招待講演	単著
18	金 度源	観光客等の緊急避難場所としての社寺の能力評価に関する研究 ~京都市清水・祇園地域を対象として~	2020年7月	歴史都市防災シンポジウム(オンライン)	谷口有里香, 大窪健之
19	金 度源	災害記憶継承に向けた出版活動 - 2015年ネパール地震を事例として -	2020年7月	歴史都市防災シンポジウム(オンライン)	サキヤラタ, 大窪健之
20	小林泰三	OSVを用いた住民参加型の斜面計測・モニタリングシステムの構築とその運用方法の検討-福井市高須町の事例	2020年7月	第55回地盤工学研究発表会	小山倫史, 近藤誠司, 芥川真一, 佐藤毅, 中田勝行, 下嶋一幸
21	小林泰三	自動追尾TSを活用した土の締固め圧縮量計測と品質管理手法の提案	2020年7月	第55回地盤工学研究発表会	竹添明生, 池永太一, 松浦良信, 土佐信一, 長谷川裕員, 河西啓次
22	桜井政成	青少年の社会貢献意識・政治参加意識へ影響する要因の国際比較	2020年11月	日本NPO学会 第22回年次大会	加野佑弥
23	武田史朗	保津川および沿岸地域における流域空間デザインの研究	2020年7月	第14回 歴史都市防災シンポジウム	松田麗央
24	武田史朗	大阪府金岡地区における次世代型都市農業拠点の構想	2020年9月	2020年度日本建築学会大会(関東)	毛利友紀野
25	豊田祐輔	コミュニティ・レジリエンス醸成方策に関するレビュー: コロナ禍社会への示唆	2020年10月	第11回横幹連合コンファレンス(オンライン)	単独
26	豊田祐輔	Simulation & Gaming for community-based disaster management	2020年11月	Webinar Series for the 52nd Annual International Conference of ISAGA	単独
27	仲谷義雄	Verification of the Effect of Presenting a Virtual Front Vehicle on Controlling Speed	2020年7月	22nd HCI International Conference on Human-Computer Interaction (HCI International 2020)	Tetsuma Konishi, Takayoshi Kitamura, Tomoko Izumi
28	仲谷義雄	Comparison of Text Representation about Disaster Information to Induce Evacuation	2020年7月	22nd HCI International Conference on Human-Computer Interaction (HCI International 2020)	Tomonori Yasui, Takayoshi Kitamura, Tomoko Izumi
29	仲谷義雄	Investigation of Information Requirements for Smartwatch-Based Evacuation Support System	2020年7月	22nd HCI International Conference on Human-Computer Interaction (HCI International 2020)	Tomoko Izumi, Fumiya Takarai, Takayoshi Kitamura

30	狭間恵三子	文化資源を活かした地域活性化について	2020年7月	商経学会 研究発表	単独
31	平尾和洋	建築設計における問題設定プロセスに関する考察その2ー「問題設定」と「問題解決」の関係性についてー	2020年5月	日本建築学会近畿支部研究報告集第60号	遠藤直久, 斎藤翔太
32	平尾和洋	建築設計における問題設定プロセスに関する考察その1ー問題設定のプロセス化ー	2020年5月	日本建築学会近畿支部研究報告集第60号	川田泰歩, 斎藤翔太, 遠藤直久
33	平尾和洋	詩的イメージを用いたデザイン発想・設計支援ツールの作成とその有効性に関する考察	2020年5月	日本建築学会近畿支部研究報告集第60号	川上樹, 小林稜治, 遠藤直久
34	平尾和洋	パリの特別POSにおける都市組織の視点とそのコントロール手法-1996年承認のムフタル地区規制改訂を通して-	2020年5月	日本建築学会近畿支部研究報告集第60号	単独
35	平尾和洋	京都市下京雅学区の事前復興計画に向けた建築物の類型化及びその評価に基づく復興モデルの提案と延焼危険性の分析	2020年5月	日本建築学会近畿支部研究報告集第60号	古川祥也, 田中勇氣, 遠藤直久
36	平尾和洋	京都市嵐山地区の事前復興計画に向けた建築物の類型化及び印象評価に基づく浸水被害を想定した復興モデルの提案	2020年5月	日本建築学会近畿支部研究報告集第60号	中村魁, 内貴美侑, 遠藤直久
37	平尾和洋	詩的イメージを用いたデザイン発想・設計支援ツールの作成とその有効性に関する考察	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	田辺勇樹, 小林稜治, 遠藤直久
38	平尾和洋	建築設計における問題設定プロセスに関する考察	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	川田泰歩, 斎藤翔太, 遠藤直久
39	平尾和洋	京都市下京雅学区の事前復興計画に向けた建築物の類型化及びその評価に基づく復興モデルの提案と延焼危険性の分析	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	古川祥也, 田中勇氣, 遠藤直久
40	平尾和洋	京都市嵐山地区の事前復興計画に向けた建築物の類型化及び印象評価に基づく浸水被害を想定した復興モデルの提案	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	田崎幹大, 内貴美侑, 遠藤直久
41	藤本将光	進行性崩壊による天然ダム決壊過程に関する現地実験と数値シミュレーション	2020年7月	2020年度砂防学会研究発表大会	高山翔揮, 里深好文
42	藤本将光	滋賀県大津市荒川地区における治水対策に関する研究	2020年7月	2020年度砂防学会研究発表大会	井上雄登, 高山翔揮, 里深好文
43	藤本将光	一溪流に連続する2つの天然ダムの決壊に伴う洪水流出過程に関する研究	2020年7月	2020年度砂防学会研究発表大会	高山翔揮, 里深好文
44	藤本将光	天然ダム進行性崩壊に関する現地実験	2020年7月	2020年度砂防学会研究発表大会	中内聡哉, 高山翔揮, 里深好文
45	藤本将光	沖縄県漢那ダムにおける魚道の生態系保全機能の効果検証	2020年7月	2020年度砂防学会研究発表大会	糸数哲, 西村萌, 菖蒲香月, 里深好文
46	藤本将光	既設砂防堰堤の腹付け改築補強における袖部嵌入に関する施工性向上の提案	2020年7月	2020年度砂防学会研究発表大会	原田紹臣, 水山高久, 小西成治, 疋田信晴, 吉永憲次
47	藤本将光	斜面崩壊に伴う土砂移動を想定した室内振動実験-高感度地震観測網における大規模土砂移動時の地盤振動特性の再現-	2020年7月	2020年度砂防学会研究発表大会	竹田海渡, 谷田佑太, 海原荘一, 福島康宏, 木下篤彦, 柴田俊, 山田拓, 小竹利明, 金澤瑛, 中谷洋明, 里深好文
48	藤本将光	細粒土砂流出防止構造を併用させた急傾斜地崩壊防止施設に関する研究	2020年7月	2020年度砂防学会研究発表大会	原田紹臣, 山本和輝, 高瀬蔵, 高森潔, 河野和人, 幸田英司, 水山高久
49	藤本将光	地震動が斜面の安定性および降雨浸透特性に与える影響	2020年7月	2020年度砂防学会研究発表大会	川島直人, Qin xin, 里深好文
50	藤本将光	降雨時の斜面崩壊における地下水及び変形挙動に関する実験的検討	2020年7月	2020年度砂防学会研究発表大会	Qin xin, 里深好文
51	藤本将光	E.P. ルートパイル工法の高度化に関する実験的研究	2020年7月	2020年度砂防学会研究発表大会	高瀬蔵, 山本和輝, 原田紹臣, 里深好文, 菖蒲香月, 梨本英, 小西

					成治, 疋田信晴, 吉永憲次
52	宗本晋作	SUGINOKO PLAYGROUND	2020年11月	2020 BUGAIK International Architecture Exhibition	単著
53	宗本晋作	Deep Learning を用いた街並み画像に対する平均訪問意欲推定 AI の作成と検証	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 2020, A-2 分冊, p. 119	大野耕太郎, 山田悟史, 細浪哲也
54	村中亮夫	自助・共助のための防災マップ作成の取り組み—北海道石狩市における水害・土砂災害の事例—	2020年10月	立命館大学歴史都市防災研究所 2020年度第4回定例研究会	浅妻裕, 谷端郷, 米島万有子, 高橋伸幸
55	持田泰秀	プレキャストコンクリートの表層性能に関する研究(材齢を通じた在来工法のコンクリートとの比較)	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	胡邵博, 坂田博史
56	持田泰秀	軽量な新材料を活用した施工について —CFRTP を活用した耐震補強の事例を通して—	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	単独
57	持田泰秀	添加剤の種類によるブリージング量の違いに関する実験的研究	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	笠原浩平, 角田和明
58	持田泰秀	再生改良土を用いた地盤改良杭工法に関する研究	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	角田和明, 笠原浩平, 松本洋
59	持田泰秀	地盤の塑性化を考慮した浮上り基礎の非線形回転角推定法に関する研究	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	峯本真, 世古泰朗
60	持田泰秀	STUDY ON THE EFFECTIVENESS OF A BUILDING STRUCTURE	2020年11月	The 10th International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment, Melbourne	Kouhei Kasahara
61	持田泰秀	STUDY ON ROTATION ANGLE ESTIMATION METHOD OF UPLIFT FOUNDATION CONSIDERING PLASTICITY REGION	2020年11月	The 10th International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment, Melbourne	Makoto Minemoto
62	矢野桂司	The Integrated Portal Site of Japanese Old Maps for Historical GIS: Using the Mitsui Collection Held by the C. V. Starr East Asian Library, University of California, Berkeley	2020年2月	New Frontiers in Digital Humanities for Japanese Culture and Arts: Activities of Art Research Center, Ritsumeikan University as International Joint Digital Archiving Center for Japanese Art and Culture (ARC-iJAC)	単独
63	矢野桂司	Extending Virtual Kyoto	2020年3月	Centre for Japanese Studies, University of East Anglia	単独
64	矢野桂司	京都地籍図データベースを用いた明治末期土地所有者のクラスター分析	2020年10月	第29回学術研究発表大会	青木和人
65	矢野桂司	日本版 WorldMap の構築と日本版 MapWarper との連携: 日本の古地図研究への活用を事例として	2020年10月	第29回学術研究発表大会	今村聡・鎌田遼
66	矢野桂司	Historical LULC Change of Pre-modern Alexandria (1517-1801 CE): Geospatial analysis for Napoleonic map (1801 CE)	2020年10月	第29回学術研究発表大会	Soliman Mohamed Usami Tomoyuki Imamura Satoshi
67	矢野桂司	あいまいな時空間情報をもつ古地図の検索と活用	2020年10月	第29回学術研究発表大会 企画セッション: あいまいな時空間情報を分析するためのツールの開発とその応用 「あいまいな時空間情報の分析」出版記念シンポジウム (企画: 浅見 泰司)	鎌田遼, 今村聡
68	矢野桂司	アレクサンドリアの都市文化遺産のための持続可能なジオデザイン: 真正性と近代化、エジプト	2020年11月	日本地理学会秋季学術大会	Mohamed SOLIMAN, Tomoyuki USAMI, Satoshi IMAMURA, Hrishikesh BALLAL
69	山本理佳	Changes to Tourism Space in Hiroshima Prefecture brought about by the establishment of the Yamato Museum	2020年2月	2nd International Conference of Critical Tourism Studies Asia Pacific	単独
70	SHAKYA Lata	Post-disaster response and recovery by the local community in historic settlements of Nepal	2020年8月	Online Seminar Series, Topic: "Community-based Planning and Disaster Risk Reduction (DRR) Nexus in Urban Areas"	単独

71	SHAKYA Lata	THE MEMORY OF DISASTER, AND COMMUNITY-BASED DISASTER MITIGATION 72RESEARCH ACTIVITIES TOWARDS A SHARED RESPONSIBILITY	2020年10月	2020 ICOMOS 6 ISCs Joint Meeting	Takeyuki Okubo, Dowon Kim
72	SHAKYA Lata	災害記憶継承に向けた出版活動- 2015年ネパール地震を事例として	2020年12月	第14回歴史都市防災シンポジウム	大窪健之, 金度源
73	大橋弘明	都市縮小期を迎えた歴史都市・京都 におけるNPO活動に関する考察	2020年10月	立命館大学歴史都市防災研究所 2020年度第4回定例研究会	単独

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第14回歴史都市防災シンポジウム	オンライン開催 (Zoom)	2020年12月5日	104名	
2	Capacity Building for Disaster Risk Management of Cultural Heritage: Challenges and Opportunities in Post-COVID Times WEBINAR 1 “Rethinking disaster mitigation and preparedness”	オンライン開催 (Zoom)	2020年6月27日	124名	
3	Capacity Building for Disaster Risk Management of Cultural Heritage: Challenges and Opportunities in Post-COVID Times WEBINAR 2 “Rethinking disaster response and recovery”	オンライン開催 (Zoom)	2020年7月4日	82名	
4	Workshop on GOOD PRACTICE FOR DISASTER MANAGEMENT OF CULTURAL HERITAGE	オンライン開催 (Zoom)	2020年10月8~ 10日	8日:188名 9日:160名 10日:122名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	青柳憲昌	「ディテールにみる戦後建築の伝統 表現 第7回 現代《床の間》愚考 1950年代の《床の間》解釈に学 べ」	『ディテール』	2020年12月
2	青柳憲昌	「ディテールにみる戦後建築の伝統 表現 第6回 吉阪隆正+U研究室 〈ヴェネチア・ビエンナーレ日本館〉 工業化の先にある「日本」の肌触り」 青柳憲昌『ディテール』(224号) 2020年3月号、彰国社、pp.93-100	『ディテール』	2020年3月
3	金度源	文化の多様性を考慮した文化財施設 の総合防災対策のあり方について- 立命館大学歴史都市防災研究所の取 組みの紹介-	島根県雲南市	2021年2月
4	金度源	A main coordinator of Workshop on“Good Practices for Disaster Risk Management of Cultural Heritage”	歴史都市防災研究所・イクロム	2020年10月
5	金度源	A main coordinator of Webinar Series, Capacity Building for Disaster Risk Management of Cultural Heritage: Challenges and Opportunities in Post- COVID Times	歴史都市防災研究所・イクロム	2020年6月
6	金度源	先斗町防災訓練	先斗町	2020年7月
7	金度源	先斗町鍋屋町防災訓練	先斗町	2020年1月
8	佐藤弘隆	京都の鉄道・バス 写真データベース	web データベース	2016年

9	佐藤弘隆	近代京都映像データベース	web データベース	2018 年
10	佐藤弘隆	歴史文化都市京都の町文書データベース	web データベース	2018 年
11	佐藤弘隆	祇園祭デジタル・ミュージアム 2020 ー祇園祭の過去・未来・現在ー	Web サイト	2020 年 7 月
12	佐藤弘隆	長江家住宅研究資源データベース	Web データベース	2020 年 7 月
13	武田史朗	京都新聞（丹波版）「保津川との共存 半世紀後見つめ 亀岡」	京都新聞	2020 年 2 月 22 日掲載
14	武田史朗	川とともに暮らす亀岡 2070 ワークショップ（主催：流域空間デザイン研究会、後援：亀岡市、かめおか霧の芸術祭実行委員会）	亀岡市（かめおか霧の芸術祭）、 https://kameoka2070.com/	2020 年 4 月～2021 年 2 月
15	豊田祐輔	日本における地震災害について	第 1 回防災に関する情報交換会（神田オフィス主催；参加者：関連企業）ココン鳥丸	2020 年 1 月～2020 年 1 月
116	豊田祐輔	防災〇×クイズ	山二地区・吹田市一斉合同防災訓練、吹田市立山田第二小学校、日本、大阪	2020 年 1 月～2020 年 1 月
17	豊田祐輔	大阪府の地震災害・風水害とマンションでの災害対策	朝日プラザ千里北防災講座（朝日プラザ千里北自治会主催；参加者：住民）朝日プラザ千里北、大阪	2020 年 2 月～2020 年 2 月
18	仲谷義雄	SDGs と大学組織	電気学会誌、140 巻、12 号、p. 759、随想	2020 年 12 月～2020 年 12 月
19	藤井健史	南笠東学区まち歩きガイドマップ・標識等調査・企画	草津市南笠東学区自治連合会受託事業	2020 年度
20	藤井健史	「草津の魅力」を再発見！～草津市内に点在する歴史資産を繋ぐ保存・活用手法の提案～	大学地域連携課題解決支援事業（環びわ湖大学・地域コンソーシアム）	2019-2020 年度
21	藤井健史	街道の補助線-歴史資産を繋ぎ、街道を顕在化させるアートワークとしての路面標示の実施-	UDCBK 社会実験準備事業等委託事業（滋賀県草津市）	2020 年度
22	宗本晋作	Stitching the national borders（最終 40 選）	INTERNATIONAL ARCHITECTURAL IDEAS AND PROJECT COMPETITION FOR THE URBAN DEVELOPMENT OF »PIAZZA TRANSALPINA / TRG EUROPE	2020 年 8 月
23	持田泰秀	海洋型施設の維持管理計画（愛知県 M 市）の立案		2020 年 4 月
24	矢野桂司	京都の時空間を俯瞰するーバーチャル京都の活用	立命館オンラインセミナー	2020 年 10 月
25	SHAKYA Lata	The Third Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Katre Valleys on Jan 5, 2020	Kirtipur, Nepal（パネルディスカッションのモデレーター、同時通訳者）	2020 年 1 月～2020 年 1 月
26	SHAKYA Lata	The Sixth Engineers Workshop for the fourth Mayors Forum in Sankharapur Municipality	Kirtipur, Nepal（主旨説明、モデレーター、通訳者）	2020 年 3 月～2020 年 3 月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	阿部俊彦	日本都市計画学会	計画設計賞	気仙沼内湾ウォーターフロントの地域主体による復興デザインー港町の景観・文化の継承と安全性の確保を両立した都市デザインの実現-	2020 年
2	阿部俊彦	日本都市計画学会	論文奨励賞	小規模多主体事業連鎖と都市基盤整備による複線型復興まちづくりの実践的研究	2020 年
3	阿部俊彦	日本建築学会	作品選集 入選	内湾ムカエル	2020 年
4	阿部俊彦	日本都市計画学会	計画設計賞	気仙沼内湾ウォーターフロントの地域主体による復興デザインー港町の景観・文化の継承と安全性の確保を両立した都市デザインの実現-	2020 年

5	小林泰三	地盤工学会関西支部	令和元年度地盤工学会関西支部「社会貢献賞」	福井市高須町におけるOSVを用いた住民参加型斜面計測・モニタリングシステムの構築	2020年4月
6	佐藤弘隆	地盤工学会関西支部	令和元年度地盤工学会関西支部「社会貢献賞」	福井市高須町におけるOSVを用いた住民参加型斜面計測・モニタリングシステムの構築	2020年4月
7	豊田祐輔	日本環境共生学会	奨励賞	人口流動期における都市部のコミュニティ避難計画に関する研究	2020年9月
8	豊田祐輔	日本シミュレーション&ゲーミング学会	優秀賞		2020年12月
9	仲谷義雄	感性工学会	2020年度出版賞	「不利益一手間をかけるシステムのデザイナー」(近代科学社)	2020年7月
10	宗本晋作	公益財団法人日本デザイン振興会	GOOD DESIGN AWARD 2020	杉の子プレイグラウンド	2020年10月
11	宗本晋作	韓国建築家協会	大韓民国慶尚北道建築大展招待作家賞(最優秀)受賞	SHOP HOUSE	2020年10月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	矢野 桂司	日本古地図ポータルサイトによるデジタル・ヒューマニティーズの推進	挑戦的研究(開拓)	2017年4月	2021年3月	代表
2	金 度源	歴史的な町並みにおけるコミュニティ防災を支援する防災活動データベースの構築	若手研究	2018年4月	2021年3月	代表
3	里深 好文	河床変動モデルと斜面崩壊モデルの結合による天然ダム決壊予測手法の開発	基盤研究(B)	2018年4月	2021年3月	代表
4	深川 良一	大規模盛土宅地造成地補強のための拡翼型アンカー工法に関する研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
5	藤本 将光	地盤強度と降雨浸透特性に着目した大規模地震後の降雨による斜面崩壊発生機構の解明	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
6	宗本 晋作	記憶を取り入れた歴史文化都市のプラットフォームの策定	挑戦的研究(萌芽)	2018年4月	2021年3月	代表
7	山田 悟史	非医療従事者の一次救命における不確実性をふまえたAED・サインの適正配置	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
8	豊田 祐輔	周辺参加住民に着目した包括的地域防災力の向上に関する研究	若手研究	2018年4月	2021年3月	代表
9	花岡 和聖	地理的ビッグデータを活用した犯罪理論の実証研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
10	小林 泰三	3次元データの活用による盛土の施工・維持管理技術の高度化と土工CIMの実装	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
11	酒井 宏平	エージェントアプローチによる災害時観光客への情報提供手法の構築に関する研究	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
12	桜井 政成	地域の「受援力」概念構築と応用可能性に関する総合的研究	挑戦的研究(萌芽)	2018年6月	2021年3月	代表
13	佐藤 弘隆	祭礼存続のストラテジーに関する都市社会地理学的研究	若手研究	2020年4月	2023年3月	代表
14	河角 直美	歴史GISによる京都の都市景観復原と地形の居住地選択への影響に関する研究	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	代表
15	伊津野 和行	橋梁工学と土砂水理学との境界領域における解析手法の開発に関する研究	挑戦的研究(萌芽)	2020年4月	2022年3月	代表
16	小川 圭一	道路ネットワーク特性と交通事故発生確率に基づく自転車通行環境の整備形態の検討	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
17	川崎 佑磨	弾性波の伝播特性を利用した橋梁用免震ゴム支承の健全性評価指標の開発	基盤研究(C)	2020年4月	2022年3月	代表
18	武田 史朗	複合的土地利用の概念とジオデザインを用いた流域空間計画手法の開発	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
19	持田 泰秀	電気比抵抗をICT活用した杭施工直後の品質確認手法に関する研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	立命太朗	〇〇に関する研究	△△財団・若手研究者奨励金	2014年5月	2015年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	大窪健之	地域防災情報システム	本学共同者	その他				日本
2	大窪健之	消火用ノズル	本学共同者	筆頭発明者				日本
3	大窪健之	地域防災情報システム	本学共同者	その他	2016-185148	2016-033	2016-033	日本
4	深川良一	弾性体を利用した孔内載荷試験装置						日本
5	藤本将光	透水試験装置および透水試験方法	本学共同者		2013-193946			日本
6	藤本将光	土壌水量を用いた斜面崩壊危険度の簡易判定手法	本学共同者		2015-102216			日本
7	持田泰秀	水硬性固化材液、水硬性固化材液の調整方法、及び、置換柱体の築造方法	本学以外	その他	特願2019-229318			日本